

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	講義
科目名	刑事政策	科目ナンバー	JAPUB2209
英語表記	Criminology	担当教員	恒光 徹
単位数	4		

### 科目の主題

科学的で人道的な刑事司法とは何かを考える。具体的には以下を検討する。近代の刑法制度は歴史的にどのようにして生まれ、現在どのように機能しているのか。また、犯罪現象の法則性および諸因子。刑罰を中心とした犯罪に対する社会的反作用。

### 授業の到達目標

日常の犯罪報道や刑事裁判報道などを批判的に（否定的という意味ではなく、現実を無条件で肯定するのではなく、発展させるべき点と変革すべき点を見極めるという意味で）理解するのみならず、現代社会と犯罪・犯罪者・刑事裁判・刑罰を批判的に検討する力を身につけることを目標とする。

### 授業内容・授業計画

講義の柱は、次のものからなる。序論：刑法規範・規範違反・違反者に対する社会的反作用から構成される犯罪現象の3段階周期。第1部 刑法制度：刑法の誕生・機能・消滅について。第2部 刑法規範の侵犯と犯罪者：大量犯罪現象における法則性・大量犯罪現象の諸因子・犯罪の個別的因子について。第3部 犯罪への社会的反作用：刑事手続の社会学的研究・少年と成人の犯罪に対する制裁について。

第1回	序論 犯罪現象の3段階周期その1：刑法規範の定立
第2回	同・その2：規範違反。その普遍性の根拠
第3回	同・その3：規範違反者に対する社会的反作用。3段階・3側面の相互依存性
第4回	1. 刑法制度 1. 刑法の誕生 (1) 人間社会における刑事司法の起源 ①人間社会における刑罰の出現時期
第5回	②私的刑事司法から公的刑事司法への移行
第6回	(2) 公的刑事司法の近代的転換 ①近代以前の公的刑事司法の特徴
第7回	②改革者たちの刑事司法構想とその部分的現実化
第8回	③法源の独占の原則とその帰結：法典化と刑法の非連続性の原則
第9回	④現代における刑罰法規の増加とその帰結
第10回	2. 刑法の機能 (1) 裁判規範としての機能：表現形式 社会的変化への裁判規範の適応
第11回	(2) 行為規範としての機能 ①刑法の担保性
第12回	②補充性 ③二次規範性
第13回	3. 刑法の消滅 ①裁判規範のみの廃止
第14回	②行為規範の消滅
第15回	中間まとめ

第 16 回	Ⅱ. 刑法規範の侵犯と犯罪者
第 17 回	1. 大量犯罪現象における法則性 (1)大量犯罪現象の相対的安定性
第 18 回	(2)大量犯罪現象におけるその他の法則性 ①時間的法則性②地理的法則性
第 19 回	2. 大量犯罪現象の諸因子 (1)都市化の犯罪現象への影響 ①人口密度と犯罪
第 20 回	②都市内部における犯罪多発地域:シカゴ学派の研究
第 21 回	(2)経済状況と犯罪の関係 ①不況と犯罪増加の関係 (i)19 世紀および 1929 年までの不況と犯罪増加との正比例関係 (ii)1929 以降の不況と犯罪の反比例関係
第 22 回	②生活水準と犯罪率の関係
第 23 回	3. 犯罪の個人的因子 (1)性別と年齢の影響
第 24 回	(2)家庭環境の影響
第 25 回	Ⅲ. 犯罪への社会的反作用 1. 刑事手続の社会学的研究 (1)犯罪捜査 ①認知の端緒
第 26 回	②捜査の方法: 捜査の 3 段階 わが国の捜査体制
第 27 回	(2)公訴の提起 被疑者の勾留の現状 検察による事件処理の現状
第 28 回	(3)公判: わが国の刑事裁判の特徴 科刑状況
第 29 回	2. 犯罪に対する制裁(1)少年に対する制裁: 現行少年法の成立と 2000 年の少年法改正
第 30 回	(2)成人に対する制裁: 死刑、刑務所の歴史と現状・近時の変化
<b>事前・事後学習の内容</b>	
事前配布する資料・参考文献の指定箇所を読み、事後、参考文献などで自身のノートを補充する	
<b>評価方法</b>	
中間試験と期末試験により評価する	
<b>受講生へのコメント</b>	
講義中の質問は大歓迎だが、私語や無断退出は厳禁する。	
<b>教材</b>	
教科書として、「ビギナーズ刑事政策」(2017 年、成文堂)を使う。適時配布する資料	
<b>その他</b>	
<b>履修可能最低年次</b>	
2 年次生以上	